

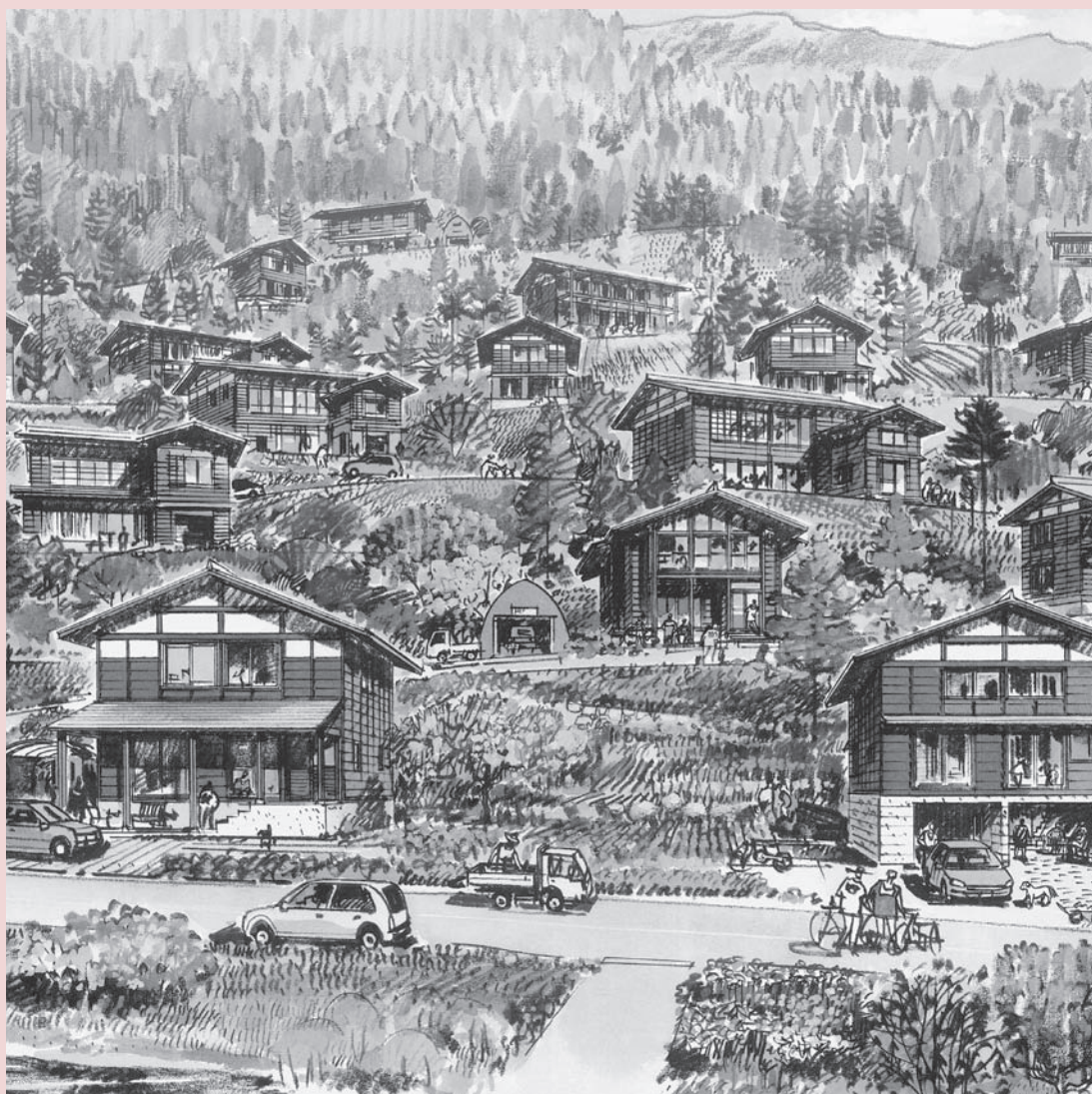
Annual Report of Researches on Development of Welfare Society

# 福祉社会 開発研究

MARCH, 2010

No. **3**

2010年3月



「山古志の集落の復興イメージ」



東洋大学福祉社会開発研究センター

CENTER for DEVELOPMENT of WELFARE SOCIETY, TOYO UNIVERSITY

平成21年度福祉社会開発研究センター研究概要

研究プロジェクト1

自治体福祉・保健計画と地域における福祉社会の形成

2010年3月

平成21年度 福祉社会開発研究センター 研究概要  
私立大学学術研究高度化推進事業オープン・リサーチセンター（人文社会系）  
「福祉社会開発の方法とその実践過程に関する総合的研究」プロジェクト1

## 自治体福祉・保健計画と地域における福祉社会の形成

### CONTENTS

1. 福祉社会化システムとしての町内会考	プロジェクト1 研究員 大坪 省三 ……	5
2. サンパウロ日系コロニアにおける老人クラブ連合会の社会的機能 ～大都市における高齢者の社会生活を支えるネットワーク～	プロジェクト1 研究員 紀 葉子 ……	15
3. 「安全・安心」な福祉社会形成のあり方（第2報） －犯罪と社会福祉・社会保障との関係に関する文献的考察－	プロジェクト1 研究員 片平 洸彦 ……	29
4. ソーシャルワークにおけるパートナーシップ形成に向けたツール使用の可能性 －ケースワーカーとの共同研究から－	プロジェクト1 客員研究員 久保田 純 ……	35
5. 大都市ひとりぐらし高齢者の概要 －墨田区ひとりぐらし高齢者実態調査結果からⅠ－	プロジェクト1 RA 申 光石 ……	49
6. 大都市ひとりぐらし高齢者のソーシャルサポートネットワークの状況 －墨田区ひとりぐらし高齢者実態調査結果からⅡ－	プロジェクト1 研究員 後藤 広史 ……	53
7. 大都市ひとりぐらし高齢者の生活継続要因 －墨田区ひとりぐらし高齢者実態調査結果からⅢ－	プロジェクト1 RA 相馬 大祐 ……	63
8. 大都市ひとりぐらし高齢者の健康状態・家計状況と必要なサービス －墨田区ひとりぐらし高齢者実態調査結果からⅣ－	プロジェクト1 RA 申 光石 ……	73
9. 民生委員の感じる困難さとその要因 －民生委員活動との関係を中心として－	プロジェクト1 RA 大村 美保 ……	79
10. 民生委員活動の統計的研究Ⅱ －東京都民生児童委員活動調査から－	プロジェクト1 研究員 小林 良二 ……	93







## プロジェクト1 研究組織

プロジェクト番号	所属・職	研究者名	研究プロジェクトにおける 研究課題
プロジェクト代表	福祉社会デザイン研究科委員長（ライフデザイン学部）教授	古 川 孝 順	福祉社会形成論
プロジェクト1-1	福祉社会デザイン研究科（社会学部）教授	秋 元 美 世	自治体行政計画論
	福祉社会デザイン研究科（社会学部）教授	金 子 光 一	社会福祉論
	福祉社会デザイン研究科（社会学部）教授	小 林 良 二	社会福祉組織論 プロジェクト1-1の統括
	福祉社会デザイン研究科（社会学部）教授	須 田 木 綿 子	非営利組織論
	福祉社会デザイン研究科（社会学部）教授	片 平 洸 彦	医療福祉論
	社会学部講師	加 山 弾	地域福祉論
	社会学部講師	川 原 恵 子	貧困論
	社会学部助教	後 藤 広 史	貧困・ホームレス論
	客員研究員（東洋大学・名誉教授）	天 野 マ キ	高齢者福祉論
	福祉社会デザイン研究科（社会学部）教授	大 坪 省 三	都市社会学、交通社会学 プロジェクト1-2の統括
プロジェクト1-2	福祉社会デザイン研究科（社会学部）教授	紀 葉 子	地域社会システム論
	福祉社会デザイン研究科（社会学部）教授	西 澤 晃 彦	都市社会学、 階級・階層構造論
	福祉社会デザイン研究科（社会学部）教授	松 本 誠 一	社会人類学
	福祉社会デザイン研究科（社会学部）准教授	西 野 理 子	家族社会学、ライフコース論
	社会学部講師	村 尾 祐 美 子	労働社会学、ジェンダー論、 社会階層論
	福祉社会デザイン研究科（社会学部）教授	森 田 明 美	児童福祉政策論 プロジェクト1-3の統括
プロジェクト1-3	客員研究員 こども教育宝仙大学（こども教育学部）准教授	宮 武 正 明	母子世帯の自立支援研究
	客員研究員 横浜国立大学大学院国際社会科学研究所准教授	相 馬 直 子	母子世帯の自立支援研究
	客員研究員 植草学園大学発達教育学部准教授	宮 下 裕 一	母子世帯の自立支援研究
	客員研究員 旭川大学女子短期大学助教	清 水 冬 樹	母子世帯の自立支援研究
	客員研究員 江戸川大学総合福祉専門学校専任講師	小 林 恵 一	母子世帯の自立支援研究
	客員研究員 横浜市中福祉保健センター職員	久 保 田 純	母子世帯の自立支援研究





平成21年度福祉社会開発研究センター研究概要

研究プロジェクト2

中山間地域の振興に関する調査研究

－ 中越地震の被災地・長岡市山古志地区の復興計画の事例に即して－

2010年3月

平成21年度 福祉社会開発研究センター 研究概要  
私立大学学術研究高度化推進事業オープン・リサーチセンター（人文社会系）  
「福祉社会開発の方法とその実践過程に関する総合的研究」プロジェクト2

## 中山間地域の振興に関する調査研究

－中越地震の被災地・長岡市山古志地区の復興計画の事例に即して－

### CONTENTS

1. 山古志の素晴らしい生活を継承しよう－山古志の地域マネジメントに関する考察－  
プロジェクト2 リーダ 内田 雄造 …… 107
2. かけがえのない村～山古志の農的暮らし  
プロジェクト2 研究員 明峯 哲夫 …… 113
3. 応急仮設住宅団地における集会所と農園の効果  
－中越大震災応急仮設住宅陽光台団地を事例として－  
プロジェクト2 RA 青柳 聡 …… 123
4. 生活の再構築に関する考察－山古志地区を事例とした中山間地居住に関する研究－  
プロジェクト2 研究員 水村 容子 …… 129
5. 山古志地域での農家等民泊に関するレポート－2009年10月までの事案報告－  
プロジェクト2 研究員 仁瓶 俊介 …… 139
6. 十二山ノ神の信仰と祖霊観（下）  
プロジェクト2 研究員 菊地 章太 …… 155
7. 山古志地区在宅高齢者の現状と改善策の提案－自立高齢者への運動提案－  
プロジェクト2 研究員 岩本 紗由美／神野 宏司／斉藤 恭平／坂口 正治／松尾 順一 …… 163
8. 徒歩による観光を目的とした山古志地区における景観資源の調査と分析（第2報）  
プロジェクト2 研究員 小瀬 博之 …… 169











## プロジェクト2 平成21年度 福祉社会開発研究センター 研究員・客員研究員一覧

	所属・職	氏名	備考
センター長	福祉社会デザイン研究科委員長(ライフデザイン学部)・教授	古川 孝 順	
プロジェクト②	福祉社会デザイン研究科(ライフデザイン学部)・教授	内田 雄 造	プロジェクト②リーダー
〈生活自立支援研究〉	福祉社会デザイン研究科(ライフデザイン学部)・教授	渡辺 裕 美	総括
7名	福祉社会デザイン研究科(ライフデザイン学部)・講師	高野 龍 昭	
	福祉社会デザイン研究科(ライフデザイン学部)・准教授	神吉 優 美	
	福祉社会デザイン研究科(ライフデザイン学部)・教授	白石 弘 巳	
	福祉社会デザイン研究科(ライフデザイン学部)・教授	本名 靖	
	ライフデザイン学部・准教授	柴田 範 子	
	ライフデザイン学部・准教授	吉浦 輪	
	福祉社会デザイン研究科(ライフデザイン学部)・准教授	的場 智 子	
〈次世代育成支援研究〉	福祉社会デザイン研究科(社会学部)・教授	森田 明 美	総括
5名	福祉社会デザイン研究科(ライフデザイン学部)・教授	角藤 智津子	
※うち客員研究員1名	福祉社会デザイン研究科(ライフデザイン学部)・教授	中原 美 恵	
	ライフデザイン学部・助教(実習担当)	若林 ちひろ	
	江戸川大学総合福祉専門学校・専任講師	田谷 幸 子	客員研究員
〈健康自立支援研究〉	福祉社会デザイン研究科(ライフデザイン学部)・教授	松尾 順 一	総括
5名	福祉社会デザイン研究科(ライフデザイン学部)・教授	坂口 正 治	
	福祉社会デザイン研究科(ライフデザイン学部)・教授	斉藤 恭 平	
	福祉社会デザイン研究科(ライフデザイン学部)・教授	神野 宏 司	
	ライフデザイン学部・准教授	岩本 紗由美	
〈住生活・住宅研究〉	福祉社会デザイン研究科(ライフデザイン学部)・准教授	水村 容 子	総括
5名	工学部・名誉教授	上杉 啓	客員研究員
※うち客員研究員3名	工学研究科(工学部)・教授	秋山 哲 一	
	前橋工科大学・准教授	古賀 紀 江	客員研究員
	一級建築士	仁瓶 俊 介	客員研究員
〈地域産業研究〉	福祉社会デザイン研究科(ライフデザイン学部)・教授	内田 雄 造	総括
4名	社会学研究科(社会学部)・教授	青木 辰 司	
※うち客員研究員2名	(財)学びやの里木魂館・主任研究員	嵩 和 雄	客員研究員
	農業生物学研究室・主宰	明峯 哲 夫	客員研究員
〈景観計画研究〉	総合情報学部・准教授	小瀬 博 之	総括
3名	工学研究科(工学部)・教授	尾崎 晴 男	
※うち客員研究員1名	千葉大学地域観光創造センター・特任研究員	齋藤伊久太郎	客員研究員
〈地域文化研究〉	ライフデザイン学部・教授	菊地 章 太	総括
3名	ライフデザイン学部・准教授	高橋 直 美	
	福祉社会デザイン研究科(ライフデザイン学部)・准教授	井上 治 代	





平成21年度福祉社会開発研究センター研究概要

資 料

研究概要／活動報告

2010年3月

## 福祉社会開発研究センター活動報告

### 1 合同活動の報告

#### 1. 第1回東洋大学福祉社会開発研究センタープロジェクト1・2合同シンポジウム

開催日時：2009年9月5日（土）13時30分から16時30分

開催場所：東洋大学白山キャンパス スカイホール

参加者：50名

開催内容：

##### 【大会テーマ】

「地域社会におけるつながりの再構築に向けた施策のあり方」

##### 【報告者】

<発表1>小林良二（東洋大学教授／福祉社会開発研究センター研究員）

「都市部におけるひとり暮らし高齢者の実態と新しいつながりの構築」

<発表2>森田明美（東洋大学教授／福祉社会開発研究センター研究員）

「都市部におけるひとり親家庭の孤立への支援を探る」

<発表3>渡辺裕美（東洋大学教授／福祉社会開発研究センター研究員）

「新潟県山古志における家族介護者支援」

<発表4>梅澤厚也（横浜市健康福祉局企画部企画課課長補佐）

「高齢者をめぐるつながりの構築にむけた横浜市の取り組み」

<発表5>木藤博之（国立市子ども家庭部長）

「つながりの再構築にむけた国立市の取り組み—子ども家庭支援をてがかりにして」

##### 【コーディネーター】

秋元美世（東洋大学教授／福祉社会開発研究センター研究員）

内田雄造（東洋大学教授／福祉社会開発研究センター研究員）

### 2 プロジェクト1活動報告

#### 1. シンポジウム・セミナー等

##### (1) 第7回東洋大学・大邱大学校合同セミナー

開催日時：2009年7月20日（月）

14時00分から17時00分

開催場所：東洋大学白山キャンパス 3203教室

参加者：58名

開催内容：

##### 【大会テーマ】

「地域におけるサービス調整機関の日韓比較—韓国の老人福祉館・社会福祉館と日本の地域生活支援システム—」

## 【主題発表】

<発表1>Kim Joung-un（大邱大学校）

「地域社会福祉拠点機関としての社会福祉館の役割に関する研究－大邱の慶北社会福祉館を中心に－」

<発表2>相馬 大祐（東洋大学大学院/福祉社会開発研究センター RA）

「地域生活支援システム構築のための取組－地域包括支援センターと障害者相談支援事業所の比較から－」

## 【総合討論及び質疑応答】

<指定発言1>小林良二（東洋大学教授／福祉社会開発研究センター研究員）

<指定発言2>Seo Hye-seok（イエス大学校教授）

## 【最終コメント】

朴 泰英（大邱大学校教授）

古川孝順（東洋大学教授/福祉社会開発研究センターセンター長）

**(2) 東洋大学福祉社会開発研究センタープロジェクト1-2公開研究会**

開催日時：2009年8月6日（木）13時30分から16時30分

開催場所：東洋大学白山キャンパス 6310教室

参加者：22名

開催内容：

## 【研究会テーマ】

「日本と韓国における家族・地域の変容と福祉社会の形成－国際比較研究の課題と方法をめぐって－」

## 【報告者】

<報告1>西野 理子（東洋大学准教授／福祉社会開発研究センター研究員）

「日本と韓国における中・後期親子間関係」

<報告2>柳 愛貞（韓国平沢市老人専門療養院事務局長）

「日本と韓国における一人暮らし高齢者の生活をめぐって」

<報告3>小松理佐子（日本福祉大学教授）

「日本と韓国における地域福祉計画の策定」

## 【指定発言、質疑応答】

<指定発言1>村尾祐美子（東洋大学講師／福祉社会開発研究センター研究員）

<指定発言2>小林 良二（東洋大学教授／福祉社会開発研究センター研究員）

**(3) 東洋大学福祉社会開発研究センタープロジェクト1-3公開研修会**

開催日時：2009年8月19日（水）

13時00分から16時00分

開催場所：八千代市総合生涯学習プラザ

2階多目的ホール

参加者：57名

開催内容：

【研修会テーマ】

「八千代市母子生活保護家庭自立支援プログラム公開研修会」

【研修】

<研修1>五木田光右氏（千葉県健康福祉指導課保護・自立支援室）

「千葉県内の福祉事務所における自立支援プログラムの取組状況について」

<研修2>森田明美（東洋大学教授／福祉社会開発研究センター研究員）

「八千代市母子生活保護家庭自立支援プログラム策定の経過と方法Ⅰ」

<研修3>宮武正明・宮下裕一（こども教育宝仙大学／福祉社会開発研究センター研究員・植草学園大学／福祉社会開発研究センター研究員）

「八千代市母子生活保護家庭自立支援プログラムのための基礎調査結果報告」

<研修4>森田明美（東洋大学教授／福祉社会開発研究センター研究員）

「経過と方法Ⅱ」

<研修5>小林恵一（江戸川大学総合福祉専門学校／福祉社会開発研究センター研究員）

「八千代市型母子生活保護家庭自立支援プログラム」

<研修6>久保田純（横浜市職員／福祉社会開発研究センター研究員）

「実施方法の説明」

<研修7>八千代市担当者

「八千代市母子生活保護家庭自立支援プログラムの取り組み報告」

【意見交換】

(4) 東洋大学福祉社会開発研究センタープロジェクト1-3公開セミナー

開催日時：2009年9月19日（土）

13時00分から16時00分

開催場所：東洋大学白山キャンパス5号館 5B12教室

参加者：45名

開催内容：

【セミナーテーマ】

「母子家庭の地域生活を支える自立支援プログラムの開発－当事者と子どもの参加の視点から－」

【報告】

<報告1>清水冬樹・宮下裕一（福祉社会開発センター研究員）

「八千代市母子家庭自立支援プログラムのための基礎調査結果報告」

<報告2>森田明美（東洋大学教授／福祉社会開発研究センター研究員）

「八千代市型生活保護における母子家庭自立支援プログラムが目指したこと」

<報告3>久保田純（横浜市職員／福祉社会開発センター研究員）

「八千代市型生活保護における母子家庭自立支援プログラム」

<報告4>市原由起子（八千代市生活支援課査察指導員）

「八千代市における生活保護受給世帯の母子家庭自立支援プログラムの取り組み報告」

## 【指定討論、共同討議】

<指定発言>大矢さよ子（母子家庭当事者団体しんぐるまざあず・ふぉーらむ理事）

## 2. 白山グループ研究会

(1) 第1回白山グループ研究会

開催日時：2009年4月23日（木）

13時30分から14時30分

開催場所：東洋大学白山キャンパス 福祉社会開発研究センター（20813室）

参加者：6名

開催内容：プロジェクト1の大村RAが「福祉的配慮のある雇用形態における経済的自立に向けた取り組み」というテーマで報告し、その後、議論した。

(2) 第2回白山グループ研究会

開催日時：2009年5月7日（木）11時00分から12時30分

開催場所：東洋大学白山キャンパス 福祉社会開発研究センター（20813室）

参加者：4名

開催内容：プロジェクト1の相馬RAが「障害者入所施設の入所過程に関する研究」というテーマで報告し、その後、議論した。

(3) 第3回白山グループ研究会

開催日時：2009年5月14日（木）

13時30分から14時30分

開催場所：東洋大学白山キャンパス 福祉社会開発研究センター（20813室）

参加者：6名

開催内容：プロジェクト1の申RAが「日本と韓国の介護保険制度に関する比較検討」というテーマで報告し、その後、議論した。

(4) 第4回白山グループ研究会

開催日時：2009年5月28日（木）

13時30分から14時30分

開催場所：東洋大学白山キャンパス 福祉社会開発研究センター（20813室）

参加者：4名

開催内容：プロジェクト1の相馬RAが「地域生活支援システムの構築のための取り組みー地域包括支援センターと障害者相談支援事業所の比較から」というテーマで報告し、その後、議論した。

**(5) 第5回白山グループ研究会**

開催日時：2009年6月4日（木）13時30分から14時30分

開催場所：東洋大学白山キャンパス 福祉社会開発研究センター（20813室）

参加者：5名

開催内容：プロジェクト1の大村RAが「知的障害者の自立支援—就労と所得保障との関係に対応した合理的配慮—」というテーマで報告し、その後、議論した。

**(6) 第6回白山グループ研究会**

開催日時：2009年6月11日（木）

13時00分から14時30分

開催場所：東洋大学白山キャンパス 5501教室

参加者：10名

開催内容：西南学院大学の安部計彦先生から「一時保護所における安全確保と権利擁護に関する研究」というテーマで報告していただき、その後、議論した。

**(7) 第7回白山グループ研究会**

開催日時：2009年6月18日（木）

13時30分から14時30分

開催場所：東洋大学白山キャンパス 福祉社会開発研究センター（20813室）

参加者：5名

開催内容：プロジェクト1の相馬RAが前回に引き続き、「地域生活支援システムの構築のための取り組み—地域包括支援センターと障害者相談支援事業所の比較から—」というテーマで報告し、その後、議論した。

**(8) 第8回白山グループ研究会**

開催日時：2009年7月2日（木）14時30分から15時30分

開催場所：東洋大学白山キャンパス 5B11教室

参加者：8名

開催内容：武蔵野大学の熊田博喜先生から「生活の変化と社会保障制度設計とのギャップがもたらす高齢者の生活危機や困窮に関わる研究」というテーマで報告していただき、その後、議論した。

**(9) 第9回白山グループ研究会**

開催日時：2009年7月9日（木）14時00分から15時30分

開催場所：東洋大学白山キャンパス 5B11教室

参加者：9名

開催内容：本センター秋元美世研究員から「社会政策と人権」というテーマで報告していただき、その後、議論した。

**(10) 白山グループ研究会**

開催日時：2009年10月22日（木）

13時00分から14時30分

開催場所：東洋大学白山キャンパス 福祉社会開発研究センター（20813室）

参加者：5名

開催内容：プロジェクト1の大村RAが「障害者の就労と合理的配慮」というテーマで報告し、その後、議論した。

**(11) 白山グループ研究会**

開催日時：2009年10月29日（木）

13時00分から14時30分

開催場所：東洋大学白山キャンパス 福祉社会開発研究センター（20813室）

参加者：4名

開催内容：プロジェクト1の申RAが「老人長期療養保険制度における今後の課題についての考察」というテーマで報告し、その後、議論した。

**(12) 白山グループ研究会**

開催日時：2009年11月5日（木）

13時00分から14時30分

開催場所：東洋大学白山キャンパス 福祉社会開発研究センター（20813室）

参加者：5名

開催内容：本センター小林良二研究員が墨田区ひとり暮らし高齢者調査の分析について報告をし、その後、議論した。

**(13) 白山グループ研究会**

開催日時：2009年11月12日（木）

13時00分から14時30分

開催場所：東洋大学白山キャンパス 福祉社会開発研究センター（20813室）

参加者：4名

開催内容：プロジェクト1の相馬RAが墨田区ひとり暮らし高齢者調査の分析について報告をし、その後、議論した。

**(14) 白山グループ研究会**

開催日時：2010年1月21日（木）

13時00分から15時00分

開催場所：東洋大学白山キャンパス 第1会議室

参加者：11名

開催内容：H&C財団居住支援研究会との合同研究会として「高齢者のための地域居住支援ネットワーク」とい



うテーマで開催した。H&C財団本センターより居住支援ガイドに関する説明・報告の後、討論を行った。また、本センター小林良二研究員が「地域包括支援センターと見守りネットワークーA市調査結果からー」と題して報告を行い、その後議論した。

### 3 プロジェクト2活動報告

#### (1) 平成21年度＜生活自立支援研究＞グループ活動報告

<b>I. 今年度の総括</b>		
<p>生活自立支援研究グループは、これまで山古志地区における要介護高齢者とその家族宅を訪問し、個別にヒアリングを行い介護相談助言を行なう「個の支援」と、家族介護者相互が顔を合わせて互いに支えあう場づくりとなる「家族介護者の集い」を展開してきた。</p> <p>平成21年度は、これをさらに広げて、家族介護者を支援する地域ネットワークづくりを行なうことにした。具体的には、11月11日に認知症専門医師による「認知症を理解する」講演を行なった。ヒアリング時に、地域保健師の「認知症の人が増えているが、認知症が病気だということを理解していない人が多いので、まずは、医師による啓蒙をしたい」という声がきっかけとなり、講演会を企画することとなった。主催：長岡市山古志支所、長岡市地域包括支援センターやまこし、東洋大学、地域復興支援センター山古志サテライト、長岡市社会福祉協議会山古志支所。共催：長岡市老人クラブ連合会山古志支部で開催した。地域団体関係者とのつながりは、今後の研究をすすめていく基盤となる。また、この講演会が「個への支援」「共助となる家族介護者の集い」に加えて「地域づくり」をすすめていくきっかけとなったことは大きな成果である。</p>		
<b>II. 研究会・調査</b>		
<b>1. 研究会</b>		
①	日時・場所	11/11 山古志地区「なごみ苑」
	内 容	認知症講座開催
<b>2. 調査</b>		
①	日時・場所	6/15 山古志地区
	内 容	高齢者世帯へのヒアリング調査
②	日時・場所	9/3～4 新潟市、山古志地区
	内 容	「地域の茶の間」等へのヒアリング調査
③	日時・場所	12/1 長岡市
	内 容	小規模複合サービス拠点併設型高齢者住宅入居者へのヒアリング調査
④	日時・場所	2/15～16 大阪府豊中市
	内 容	豊中市地域福祉課・社会福祉協議会ヒアリングへの調査
⑤	日時・場所	3/4～3/7 岐阜県高山市
	内 容	「のくとい館」（冬季住居施設）へのヒアリング調査

**(2) 平成21年度＜次世代育成支援研究＞グループ活動報告**

<b>I. 今年度の総括</b>		
<p>昨年度より実施している長岡市社会福祉協議会の災害ボランティアセンター活動記録の分析と、災害ボランティア「にゃんこ隊」の活動記録のまとめを継続して行っている。</p> <p>また、9月に札幌市で開催された「地方自治と子ども施策全国自治体シンポジウム2009」に参加し、地方自治体の子どもに対する取り組みや施策について、具体的な事例を聞くことができた。</p> <p>現在は昨年度実施した、山古志全世帯アンケート調査での、「子ども・家庭分野」の項目を抽出し、集計・分析を進めている段階である。</p> <p>来年度は、そのアンケート調査の分析結果を継続して行い、また現地調査等も行っていきたいと考えている。</p>		
<b>II. 研究会・調査</b>		
<b>1. 研究会</b>		
①	日時・場所	9/3～4 北海道
	内 容	「地方自治と子ども施策全国自治体シンポジウム2009」参加
<b>2. 調査</b>		
①	日時・場所	なし
	内 容	なし

## (3) 平成21年度＜健康自立支援研究＞グループ活動報告

<b>I. 今年度の総括</b>		
<p>本年度の活動の中心は仮設住宅から山の生活に戻られた生活環境の変化を踏まえ、時間経過と共に変化した山古志地区の高齢者の日常生活（健康面）について改めて調査を行った。調査対象は日常的に高齢者と関わりの深い行政の保健士、震災後ボランティア活動に携わられて、今現在も行政の立場で高齢者の生活を把握されている方々に協力を得た。</p> <p>調査結果では震災前の日常に近い山での生活に戻られてはいるものの、身体活動が積極的にできる高齢者と積極的には行えない高齢者に大きく分かれている傾向にあることが明らかとなった。身体活動が積極的に行える高齢者の多くは日常的にゲートボールを行っているとの現状が把握できたが、そこでの問題点として整形外科的問題（膝痛、腰痛）が多いことも明らかとなった。</p> <p>そこで、積極的に身体活動（ゲートボール）を継続的にを行っている高齢者に対して、簡易的なアライメントチェック、体力測定を行い、身体活動をするにあたっての準備運動を提案した。</p> <p>尚、比較対象地域の楡法華地区に対しても同内容のチェック、測定を実施した。楡法華地区には日常的に集団で実施可能な体操を提案した。</p>		
<b>II. 研究会・調査</b>		
<b>1. 研究会</b>		
①	日時・場所	8/19～20 山古志地区
	内 容	体力測定、運動指導、レクリエーション講習会
②	日時・場所	9/13～14 函館市楡法華地区
	内 容	体力測定、運動指導
③	日時・場所	10/24～26 函館市楡法華地区
	内 容	運動指導、ワークショップ開催
④	日時・場所	3/11～12 函館市楡法華地区
	内 容	運動指導
<b>2. 調査</b>		
①	日時・場所	7/8 山古志地区
	内 容	ヒアリング調査（山古志支所社会福祉担当者）

## (4) 平成21年度＜住生活・住宅研究＞グループ活動報告

## I. 今年度の総括

平成21年度は前年度までに実施した調査・研究の中間的なとりまとめを行った。

①2008年3月～4月実施の中越震災前に旧山古志村に居住していた全世帯を対象としたアンケート調査の結果分析。配布数677票・回収数249票（回収率36.8%）であり、有効回答を、現山古志地区住民および地区外移転住民に分類し、クロス集計を実施した。

②2007年度、2008年度に実施した、山古志地区帰村住民および他地区への移転住民に対するケーススタディ調査結果の分析を行った。

これらの検討から、山古志地区居住者は地区へ戻ったことにより、高齢者が生きがいを得たなどのメリットが存在する一方、公共交通機関の不備、商業施設の不足、地区外移転者がいるため地域コミュニティの継続が困難な状況、などが明らかになった。一方、地区外へ移転したものは、生活の利便性を求めて長岡市街地などに移転していたが、利便性は享受しつつ、故郷である山古志地区との距離、山古志地区住民と疎遠になっていく人間関係に不安を覚えている状況が明らかになった。

住生活・住宅研究グループは、上記の研究に関して（財）住宅総合研究財団から研究助成を受けており、研究成果は財団報告書へ掲載予定である。さらには、日本建築学会計画系論文集への投稿も行った（現在審査中）。

## II. 研究会・調査

## 1. 研究会

①	日時・場所	メールでの検討
	内 容	次年度以降の活動に関する検討を行っている。具体的には、山古志地区内の小中学生を対象とした、山古志地区におけるコミュニティ観・住生活観を抽出する研究の計画を予定している。

## 2. 調査

①	日時・場所	平成21年度において調査等は実施しなかった。
	内 容	

## (5) 平成21年度＜地域産業研究＞グループ活動報告

<b>I. 今年度の総括</b>		
<p>昨年度までの一連の作業、特に山古志地域の地域産業の実態把握、山菜や農産物などの現地直販所や農家民宿の先進事例の調査を踏まえ、山古志地域の地域産業の将来構想を整理した。</p> <p>また、人口の減少、高齢化が続き集落機能が弱体化しつつある山古志地域の現状と生活実態を踏まえ、地域住民のたまり場や地域住民の活動の場をいかに確保するか研究をおこなった。</p> <p>以上の点から、春から秋にかけてオンシーズンは山菜や農産物の直販所と地域の素材を活かしたレストラン、冬期のオフシーズンには旧教員宿舎などのストックを活用した共同生活所構想などを今後の研究テーマとしている。</p>		
<b>II. 研究会・調査</b>		
<b>1. 研究会</b>		
①	日時・場所	4/11～12 山古志会館
	内 容	シンポジウム開催
②	日時・場所	4/23 朝霞校舎
		5/21 朝霞校舎
		6/25 朝霞校舎
		7/17 朝霞校舎
		10/29 朝霞校舎
		12/3 朝霞校舎
		2/4 朝霞校舎
		3/18 朝霞校舎
	内 容	地域産業研究グループ研究会
<b>2. 調査</b>		
①	日時・場所	8/22～24 山古志地区
	内 容	ヒアリング調査
②	日時・場所	10/2 山古志地区
	内 容	現地視察
③	日時・場所	2/13～15 大阪府箕面市
	内 容	現地視察

**(6) 平成21年度＜景観計画研究＞グループ活動報告****I. 今年度の総括**

前年度に続き、来訪者の視点で山古志地区の景観要素及びポイントを把握し、地図上にこれらをまとめる作業を行うための実地踏査を実施した。

9月18日の調査では、これまで実施していなかった虫亀～萱峠～種苧原間及び竹沢～梶金～木簗間の2つのルートの景観要素と主要な景観スポットを、学生を同行した踏査により抽出した。また、同一ルートにおいて行われた「山古志ウォーク」において参加者にアンケート調査を実施し、来訪者にとっての魅力的な景観要素を把握した。

1月10日・11日は、地域復興支援センター前年度に引き続き冬の景観要素の踏査を、学生を同行して実施した。前年度は50cm程度の積雪であったが、今年度は200cm程度の積雪があり、大きな景観の変化を比較することができた。また、雪の白を貴重とする景観の中で、杉の緑と杉の枝葉につく雪が美しい景観を織りなす様子や生物の生息に必要な柿等の実の存在の重要性を把握した。さらに、無形的な景観要素として、木簗集落と梶金集落の賽の神（どんと焼き）に参加して、藁で作られた賽の神の形態の相違等の習わしの違いを把握した。

なお、11月8日に白山キャンパスで行われた山古志ボランティア参加卒業生交流会に参加して、学生ボランティアのこれまでと現在の取組を、学生ボランティアセンターの卒業生及び現役学生又ボランティアに関わった教職員、地域復興支援センター山古志サテライトの方々から聞くことができ、ボランティア活動の今後の課題についての知見を得た。

景観計画研究の一環として、学生の目線による景観把握を重要視して研究を推進してきたが、研究グループでも関係してきたメンバーの多い学生によるボランティア活動についても、その効果や今後の課題について、福祉社会開発研究センターの重要な役割として今後の研究でまとめていく必要性を強く認識した。

**II. 研究会・調査****1. 研究会**

①	日時・場所	4/11～12 山古志会館
	内 容	シンポジウム開催
②	日時・場所	11/18 白山キャンパス
	内 容	山古志ボランティア参加卒業生交流会への参加

**2. 調査**

①	日時・場所	9/18 山古志地区
	内 容	景観調査
②	日時・場所	1/10～1/11 山古志地区
	内 容	景観調査

## (7) 平成21年度＜地域文化研究＞グループ活動報告

<b>I. 今年度の総括</b>		
<p>本研究班は山古志地域に伝承された文化と人々の生活のありようを社会学・文学・宗教学の立場から多面的に理解していくことをめざしている。今年度は昨年度に引き続き、各自が関心をいただくテーマについて個々に研究を行なうことをめざした。</p> <p>井上は社会学の立場から、中山間地域における住民意識の確立と存続について調査を行なっている。今年度は、平野部などの農村地域に存在する庄屋という制度が、山古志やその周辺地域においてどのような形態で存在し、それがどのような機能を果たしてきたのかを明らかにするための予備調査を行なった。</p> <p>高橋は文学研究の立場から、山間農村部の口碑伝承に関する比較研究を行なっている。今年度は関連資料の収集と解説を継続して行なった。</p> <p>菊地は宗教学の立場から、山古志における山ノ神信仰について調査を行なっている。今年度は山古志地域の周辺に足を伸ばし、長岡市と魚沼市と南魚沼市の十二神社について現地調査を行ない、山ノ神信仰が伝承されている文化圏の広がりを理解しようとした。</p> <p>2009年12月9日から10日まで、井上と菊地は長岡市山古志地区ならびに魚沼市、南魚沼市などの周辺市町村で調査を実施した。聞き取り調査を補助するため、ライフデザイン学部4年次生2名が同行した。</p> <p>上記の活動をもとに菊地がその研究成果の一部を「十二山ノ神の信仰と祖霊観（下）」と題して『福祉社会開発研究』第3号に執筆した。</p>		
<b>II. 研究会・調査</b>		
<b>1. 研究会</b>		
①	日時・場所	12月1日 東洋大学朝霞校舎 菊地章太研究室
	内 容	現地調査の打合せ
<b>2. 調査</b>		
①	日時・場所	12月9～10日 長岡市山古志地区、魚沼市、南魚沼市
	内 容	現地調査、山古志地区虫亀にて聞き取り、南魚沼市立図書館にて資料収集





## 福祉社会開発研究 第3号

2010年3月31日発行

編集／発行 東洋大学福祉社会開発研究センター

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20

TEL／FAX 03(3945)7504



「山古志の集落の復興イメージ」  
作成：㈱アルセッド建築研究所

